

# かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

2024  
summer | Vol. 97

特集

## 海上保安国際研究 センターの挑戦!

海上保安庁のシンクタンク機能  
強化を推進



海上保安庁  
JAPAN COAST GUARD

# かいほ ジャーナル

C O N T E N T S



Vol. **97**

2024 SUMMER

## PHOTO GRAVURE

- 1 「アジア安全保障会議(シャングリラ・ダイアログ)」初参加
- 1 日米韓海上保安機関合同捜索救助訓練
- 2 練習船「こじま」最後の遠洋航海出港式
- 2 海洋環境保全推進月間
- 3 富山湾海底で斜面崩壊の痕跡を確認
- 3 来島海峡航路西側海域における経路指定

## 4 特集

# 海上保安国際研究センターの挑戦! 海上保安庁のシンクタンク機能強化を推進

## 12 *NEWS FLASH*

### 裏表紙

自己救命策の確保

海上保安大学校・海上保安学校採用試験

第25回 未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール





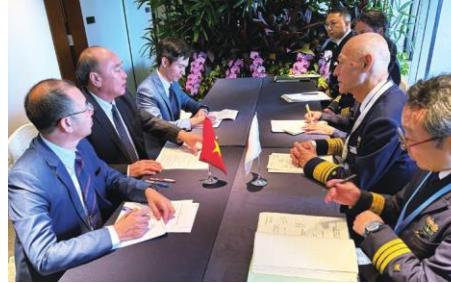
特別セッションの様子



海上保安機関長官級集合写真



日本・アメリカ・フィリピン長官級会談集合写真



日本・ベトナム二国会談の様子



日本・インドネシア二国会談の様子

令和6年6月1日、海上保安庁はシンガポールにて開催された「アジア安全保障会議（シャングリラ・ダイアログ）」に初めて参加しました。  
 会議では、今回初めて設けられた「海上法執行と信頼醸成」の特別セッションに参加し、海上法執行機関の役割とその重要性について、各国の海上保安機関の長官等と議論を交わしました。また、同会議に出席していたアメリカ、フィリピン、インドネシア、ベトナムの海上保安機関長官とそれぞれ二国会談を行ったほか、日本・アメリカ・フィリピン三国会談を初めて実施しました。



**「アジア安全保障会議  
（シャングリラ・ダイアログ）」初参加**



訓練前の最終打合せの様子



日米韓三機関の船が並走する様子

海上保安庁は、米国沿岸警備隊・韓国海洋警察庁と合同で、海上における捜索・救助に関する訓練を初めて実施しました。本訓練は日米韓海上保安機関連携にかかる「意向確認書」に基づく取組であり、三機関間の信頼醸成と相互理解の促進を通じて、さらなる連携・協力関係の強化を図りました。



**日米韓海上保安機関  
合同捜索救助訓練**





ご家族、在校生等のお見送りに敬礼する実習生

呉湾を航行する練習船「こじま」とそれを見送る在校生

令和6年4月22日、練習船「こじま」は、今年3月に海上保安大学校を卒業した専攻科36名（うち女性7名）、現役職員である研修科国際航海実習課程6名（うち女性3名）を乗せ、95日間の遠洋航海へ向けて、母港である広島県呉市を出港しました。令和6年7月1日に、新練習船「いつくしま」が就役したことから、練習船「こじま」での遠洋航海は、今回が最後となります。

なお、次号（98号）では、練習船「こじま」最後の遠洋航海について特集します。

3  
PHOTO GRAVURE  
練習船「こじま」  
最後の遠洋航海出港式



岩手県内の小学生と海浜清掃及び漂着ごみ分類調査を実施

海上保安庁では、海洋環境保全に関する指導・啓発活動を重点的に実施するため、「未来に残そう青い海」をスローガンに、毎年5月30日～6月30日までを「海洋環境保全推進月間」と定めており、今年度も様々な取組を全国各地で行いました。

4  
PHOTO GRAVURE  
海洋環境保全推進月間



大分県内の保育園において海洋環境保全教室を実施

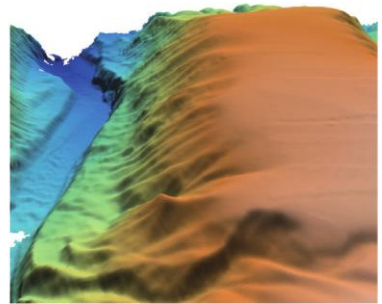




# 富山湾海底で斜面崩壊の痕跡を確認

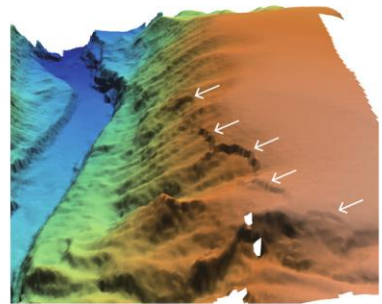
海上保安庁では、令和6年能登半島地震による水深の変化を把握するため、令和6年2月27日～28日にかけて富山湾の海底地形調査を実施しました。今回の調査結果と過去の調査結果を比較したところ、富山市沖の海底谷の斜面（水深約30～370メートル）が南北約3.5キロメートル、東西約1キロメートルにわたって崩壊し、最大40メートル程度深くなっていることが明らかになりました。富山検潮所では、能登半島地震の震源から離れているにも関わらず、地震発生約3分後に津波が観測されました。確認された斜面崩壊は、富山湾沿岸へ異常に早く到達した津波の発生に関係している可能性が指摘されています。

2010年の北陸地方整備局の調査結果（鳥瞰図）



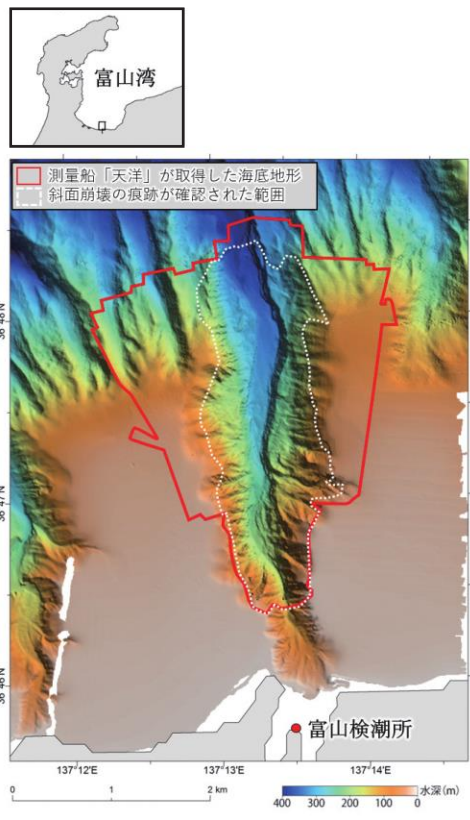
※南から俯瞰、鉛直方向を2倍に誇張

今回（2024年2月）の調査結果（鳥瞰図）



※南から俯瞰、鉛直方向を2倍に誇張

※白矢印は顕著な斜面崩壊の場所を示す



# 来島海峡航路西側海域における経路指定

令和6年7月1日午前10時から、海上交通安全法第25条第2項に基づく告示により、来島海峡航路西口に「経路」を新たに指定しました。来島海峡航路を航行する船舶は、告示により指定される経路によって航行する必要があります。なお、経路を示すバーチャルAIS航路標識を設置しており、航海用レーダーや電子海図上にシンボルマークが表示されます。また、安芸灘南航路第四号灯浮標を廃止し、付近の推薦航路を短縮しました。

**2024年7月1日10:00開始**

**<経路の概要>**  
 1. 来島海峡航路を西航し、a線を横切って航行しようとする船舶は、b線を横切ってはならない。  
 2. a線を横切り、来島海峡航路を東航しようとする船舶は、b線を横切ってはならない。

**<北流時>** **<南流時>**

**経路両側の表示**  
 経路は、バーチャルAIS航路標識により東端と西端を表示します。実際に灯浮標が設置されるものではありません。

**来島海峡航路西口AバーチャルAIS航路標識**  
 V/KURUSHIMA-WEST-A  
 北緯34.0-9.24 東経132.5-3.55

**来島海峡航路西口BバーチャルAIS航路標識**  
 V/KURUSHIMA-WEST-B  
 北緯34.0-9.37 東経132.5-5.05

**AIS非搭載船舶へのお願い**  
 バーチャルAIS航路標識とは、実在しない航路標識をAISの信号により航海用レーダーや電子海図上にシンボルマークとして表示するものです。バーチャルAIS航路標識は、AIS非搭載船舶には表示されません。これら船舶は、最新の海図により経路を確認するとともに、GPSプロッター等への位置入力をお願いします。

**海上保安庁**

**来島海峡航路に出入りする際の“経路”を新たに指定します**

来島海峡航路を航行する船舶は、海上交通安全法第25条第2項に基づく告示により指定される経路によって航行する必要があります。（経路の概要は裏面をご参照ください。）経路の指定に合わせて安芸灘南航路第四号灯浮標を廃止し、付近の推薦航路を短縮します。

**2024年7月1日10:00開始**

**経路指定海域**  
 ※経路は西側入口のみ指定

**安芸灘南航路第四号灯浮標廃止**

出典：海洋状況表示システム（URL: https://www.mlit.go.jp/）

経路の指定、バーチャルAIS航路標識の表示及び灯浮標の廃止等に関する詳細は、第六管区海上保安本部ホームページにてご確認ください。  
<https://www.kaiho.mlit.go.jp/06kanku/safety/kurushima-keiroshitei.html>

**問い合わせ**  
 第六管区海上保安本部交通部航行安全課  
 広島県広島市南区宇品海岸3丁目10-17  
 082-251-5111(代)

【来島海峡西側海域経路指定リーフレット】



# 海上保安国際研究センターの挑戦！ 海上保安庁のシンクタンク機能強化を推進



東京センター(東京都品川区)



海上保安国際研究センター(広島県呉市 海上保安大学校内)

海洋の安全保障に関する諸課題に対応するため、国内外の大学や研究機関等との幅広い共同研究を推進し、世界でも珍しい海上保安に関するシンクタンクとして、世界の海上保安政策に関する研究をリードしていくことを目指している海上保安国際研究センターの取組をレポートする。

取材・文/北川 聡 (フォーラムK)

近年、我が国を取り巻く海洋における諸問題が年々増大、複雑化しており、海洋の安全保障に関わる喫緊の課題に対して、海上保安分野における学術的観点からの研究・分析や提言発信が強く求められている。

海洋の安全保障に関する諸課題に対応するため、研究者を配置して、シンクタンク機能を強化し、国内外の研究機関・教育機関との交流や共同研究を推進しようとしているのが、「海上保安国際研究センター(旧称:国際海洋政策研究センター)」だ。令和5年4月には東京都品川区にも事務所が開設された。

センターの役割や活動内容について、海上保安国際研究センター長である後藤宏明教授に話を伺った。

## センターのミッションは 学術研究と人材育成

海上保安国際研究センターは、海上保安大学校(広島県呉市)と新しく設立された東京センター(東京都品川区)の二ヶ所を拠点として研究を行っています。前身の国際海洋政策研究センターが平成14年に設置されて以降、教員の研究活動は活発に行われてきましたが、海上保安行政の更なる国際化、高度化、複雑化に比例して、研究ニーズは増大し、質的にも高度化してきたことから、研究・分析・提言発信等の機能を更に強化する必要が出てきました。これを受け、令和5年4月に、東京での拠点となる東京センターを開設し、研究を専門にする主任研究

員を配置し、体制を強化しました。また、日本財団海上保安研究基金の助成により、規模の大きな取組ができるようになっていきます。

## 国内外で連携して研究を推進

現在、センターでは海上保安大学校の教員が主任研究員となり、テーマごとにそれぞれユニットを組んで国内の他の大学の教授たちと連携しながら研究を進めています。

外部の研究者と連携し、ユニットによる研究を実施するには、それぞれの研究者が持つネットワークを活用し、関心のある研究者が集まり、それぞれが持つ関心事項について意見交換をし、研究課題を絞り、調査・研究を行っていくというプロセスを踏んでいきます。

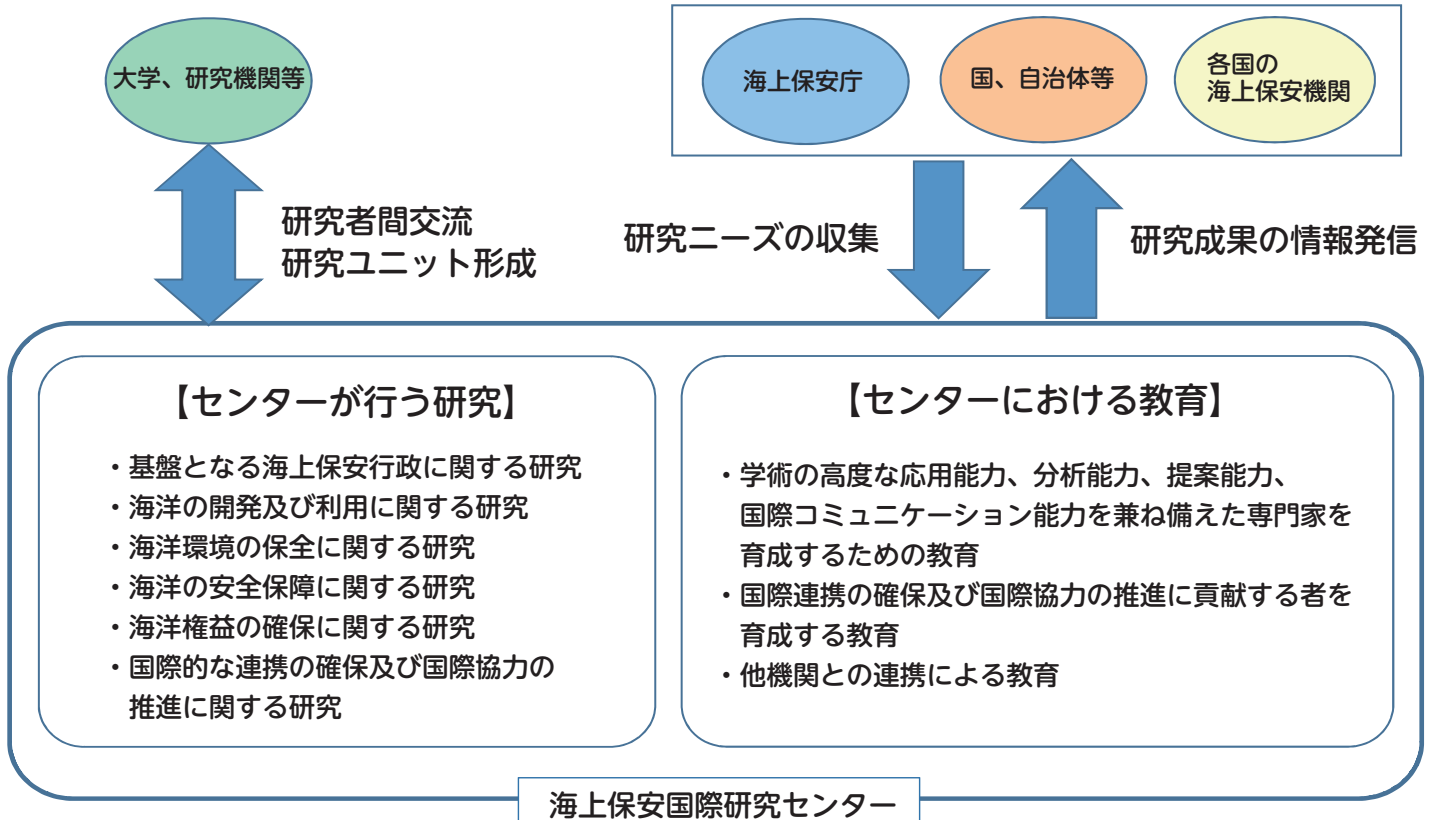
センターは、呉にある海上保安大学校の教員と東京センターの主任研究員、そして学外の客員研究員が集まるハブのような役割になると考えています。また、研究テーマについても、海上保安に関連する事項であることが求められます。

この点においてセンターは政策決定の中心となる本庁等と連絡をとりつつ、調整を行っていくこととなります。それぞれ個性のある関心事項とアプローチがある中で、それを一つに束ねることは、決して簡単ではなく、各研究ユニットの主任研究員が苦勞するところだと思えます。

しかし、ある問題について、多くの研究者が様々な視点で分析し、統合することで学際



## ミッション図



### 豊富な現場経験を活かし センターをまとめる



ことう ひろあき  
**後藤 宏明** センター長

海上保安大学校卒業後は、陸海問わず色々な業務に就きました。船長として巡視艇に乗り、韓国漁船の密漁を取り締まる際に、巡視艇を接近させて海上保安官が船に移る強行接舷は命がけでした。

4年前副センター長に任命された時、先生方の研究方向をまとめ、先生方の研究資源を現場に分かりやすく伝え、研究内容を海上保安機関の中で周知させる役割も重要だと感じて引き受けました。今もその時の気持ちを忘れず、センター長として一生懸命日々奮闘しております。

### 国際的な教育支援の実施

センターのもう一つのミッション、国際的な教育支援には2つあります。ひとつは政策研究大学院大学および独立行政法人国際協力機構（JICA）との連携によるアジア各国の海上保安機関幹部を対象とした修士課程である海上保安政策プログラム（MSP）。2つ目は、主にJICAの様々なプログラムに協力し、外国の海上保安機関の職員に必要な教育を行うセンター国際教育と呼ばれるものです。

今、日本では「自由で開かれたインド太平洋

洋」というスローガンのもとに諸政策が進められていきます。そこにおける基本的な考え方のひとつに「法の支配」があります。海の秩序の維持は、法に基づいて行うという考え方は、今後も非常に重要な考え方であり、海上保安庁も法執行機関として同じ考えをもっていきます。

海上保安庁は、今後ますますインド太平洋諸国の法執行能力の向上に寄与することを求められると思います。海上保安国際研究センター長である私としても、当センターで実施している各教育を通じて各国の法執行能力の向上に貢献したいと考えています。

また、学生の時期から国際感覚の醸成を図り、国際対応力を向上させるために、学生国際会議も海上保安大学校がバックアップを行い、海上保安国際研究センターが幹事を務め、開催しています。





MSPでの授業



MSPでの授業



海上保安国際研究センタースタッフ（海上保安大学校内）



センター国際教育での分析展示



センター国際教育での分析展示

## 海上保安政策プログラム (MSP) とは

平成 27 年にスタートした海上保安庁と政策研究大学院大学及びJICAとの連携プログラムで、世界初の海上保安分野の専門家を育成するための修士課程。海上保安庁とアジア地域等の海上保安機関から派遣された幹部職員が政策研究大学院大学と海上保安大学校の2カ所のキャンパスで1年間就学。国際法、国際関係論、安全保障論等の講義に加え、救難防災政策、海上警察政策等の海上実務と融合した実践的対処方法に関する演習を履修します。

期待しています。

東京はまさに日本の中心ですから、大いに

研究活動だけでなく、情報発信においても

その最新線の拠点が東京センターです。

ればならないと思います。

今後、センターがシンクタンクとしての

役割を果たしていくには、何よりも、海上

保安庁が求める研究を推進し、その成果を

発信していくことが重要と考えています。

そのためには、研究者には海上保安業務、

とりわけ現場の業務を理解してもらわな

目標はシンクタンク機能の強化

海上保安国際研究センターのミッション

が国際的な調査研究と人材育成であること

はすでに述べたが、その最大の目的は海上

保安分野の研究を推進・対外発信を強化す

ることによってシンクタンク機能を強化

し、海上保安分野における戦略上のソフト

パワーとして貢献していくことである。後

藤センター長は語る。



## シンクタンク機能強化の最前線、東京センター

令和5年4月、東京都品川区東大井に開設された東京センターは、副センター長、主任研究員2名、研究調整官1名、国際教育支援官1名の計5名でスタートした。

海上保安国際研究センターが目指すシンクタンクが担う役割は、世界の海上保安政策に関する研究をリードすることであり、海上保安行政に関して戦略的な業務遂行、質の高い行政サービスの提供、国際協力・外国関係機関との連携強化のための提言を行うことである。そのシンクタンク機能強化の最前線となる拠点が東京センターだ。シンクタンクとして何を目指し、どう行動するのか。海上保安庁という行政組織がシンクタンクを持つことの意義はそもそも何か。副センター長である奥蘭淳二教授に話を伺った。

### 海上保安庁が自ら

### シンクタンクを持つことの意義

現場で活躍している海上保安官は、日々発生する問題を解決するため全力で業務に臨んでいます。

しかし、どうしても今そこにある課題

に意識が集中することになるため、制度と担当者の過去の経験といった利用しやすい知識ばかりが、問題解決の切り口になつてしまつて思っています。

それに対して現場実務と距離を置いた学問的環境で成長してきた研究者が、専門性の高いアカデミックな視点で現場の実務における問題や政策課題を見つめ、アドバイスや提言をすることは非常に役に立ちます。しかし、せっかくの提言もあまりに実務からかけ離れていては、有効な“処方箋”にはなりません。そこで、現場の実情を把握するために実務者と研究者との間に顔の見える環境を作り、外からの目線ではあるけれど内側の気持ちも理解できる、という目線で研究者たちが専門的に下支えしてくれる体制を整えること、つまり自らシンクタンクを持つことが必要になるのです。

海上保安国際研究センターには、一般の研究者として研鑽を積み、海上保安大の学校に採用された研究者だけでなく、私のように海上保安官が修士や博士を取得して任用された研究者の2種類の研究者が勤務していて、様々な視点から海上保安に関する諸問題について研究を進める体制が徐々に構築されつつあります。

### 東京にセンターを構えた理由

第1の理由は優秀な研究者と顔の見える関係を作ることができるからです。研究機関が集中している東京では、学会や研究会等に参加しやすく、研究動向をつかんだり、他の研究者と議論する機会を得やすいです。

第2の理由は海上保安庁と顔の見える関係を作ることができるからです。前身の国際海洋政策研究センターは、海上保安庁が抱える政策課題について十分な情報を収集できておらず、海上保安庁では、私たちの研究領域、提案能力、対応できる課題領域などに対する認知があまりなかったのです。

シンクタンクとして機能するために、海上保安庁と海上保安国際研究センターとの情報交換を頻繁に実施するための中核として、東京センターは機能していきます。

最後に、効果的に研究成果を発信できる拠点も必要だからです。最近では、オンラインで簡単に世界中の人と議論できるようにはなっていますが、発信力に關していえば対面での情報発信とは比べようもありません。セミナーやシンポジウムを開催するには東京の地の利は非常に大きいのです。

### シンクタンクとして「学際的」研究を推進

海上保安国際研究センターが目指すのは、海上保安に関するシンクタンクです。海上保安業務そのものは、陸上においても必要とされていることばかりであり、これらに対する研究も様々な切り口で行われてきました。

しかしながら、それらが海を舞台に行われると格段に複雑さを帯びることになります。例えば、海には特別な国際法体系がありますし、船舶が関係する以上、それにかかわる理学的、工学的な問題から目を背けることはできません。陸の世界で研究されている知見を単に海に持ち込むだけでは対応できないのです。

学問の世界では、単独の学問だけでは解決が難しい課題や研究テーマに対して、複数の学問を連携・融合させ研究する「学際的」研究があるべき研究スタイルの一つといわれるようになりつつあります。私たちも複雑化、国際化する世界の海上の安全を取り巻く状況に対応するため、学問分野間の連携を確保しつつ、総合的に、そして学際的に研究を進めていくことが使命だと考えています。



## シンポジウムを海上保安に対する 関心を高める起爆剤に

海上保安国際研究センターが強化するシンクタンク機能の中核となるのが「研究と発信の強化」だ。

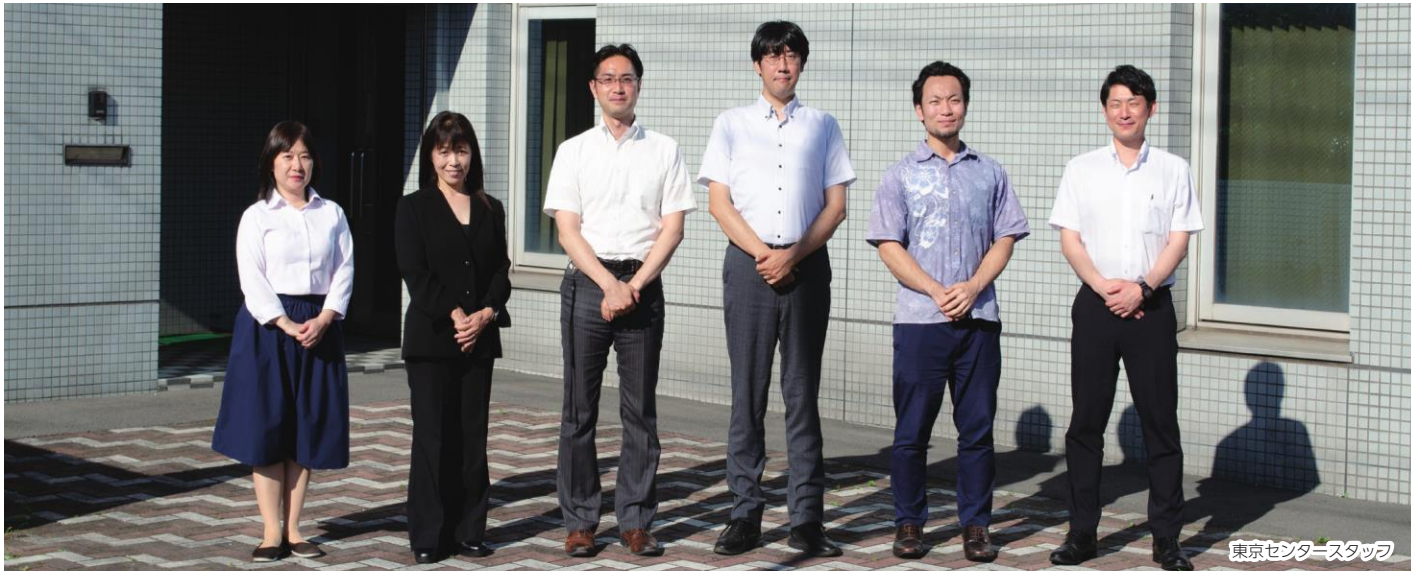
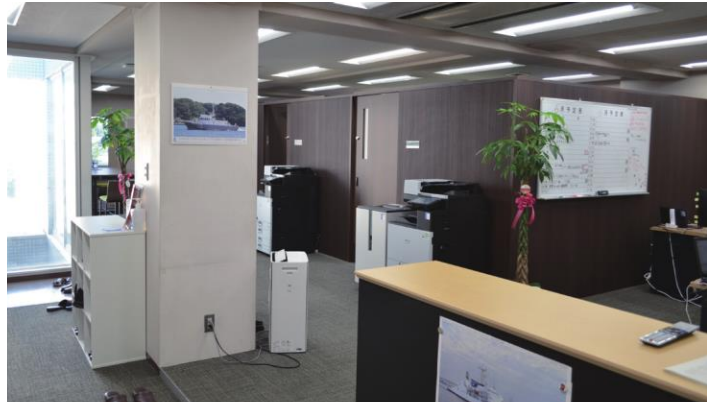
具体的な成果を発信し、研究分野のネットワークを構築して研究の新たな広がり  
と深化を図るため令和6年秋に、海上保安  
安大学校と海上保安協会が共催し、研究  
シンポジウムを開催する予定だ。後藤セ  
ンター長は語る。

このシンポジウムは、センターができてから一番大きな行事になると思います。「センターができた」ということを広くPRさせていただけるという期待もありますが、なにより「力」ではない「法の支配」による海洋秩序の維持が今非常に重要で、緊張感の高まる国際環境に対してどう考えていくのか。国際法の研究者と地域研究の研究者による学際的な討議を通して多くの人に共に考えていただけるのではないかと大変期待しています。

政府系のシンポジウムは、方向がある程度決まりがちなのですが、今回は学術シンポジウムですので、ある意味答えがない。いろんな課題が出てくるかもしれないシンポジウムなのです。海上保安に対する関心を高める一つの起爆剤にしたいですね。



東京センター



東京センタースタッフ

## 東京センターをシンクタンクの中核に

おくその じゅんじ  
**奥蘭 淳二** 副センター長

海上保安大学校を卒業し、現場を2年半経験した後、京都大学公共政策大学院に入学し、教員候補としてさらに3年間、同法学研究科の博士課程で学びました。その後、大学校の教員として勤務し始めて十数年になります。

行政に関わる研究課題は実務的課題と学術的課題の2種類があります。副センター長として、実務的課題を学術的課題に転換して学術研究の文脈に乗せるとともに、学術的知見を実務家が納得できる処方箋として示す翻訳者としての役割を果たし、実務と学術のギャップを埋めていきます。

今後は研究者を増やし、より学際的かつ総合的に世界の海上保安の問題に対して処方箋を書けるラインナップを揃え、それを事務的にサポートする体制を整えていきたいと考えています。



# 研究員インタビュー

やまかげ すばる  
**山影 統** 主任研究員

研究領域：中国外交、中国外交史、国際政治

## 【主な実務経歴】

慶應義塾大学大学院政策メディア研究科博士課程を単位取得後退学、慶應義塾大学、早稲田大学、東京大学などで非常勤講師を担当。東洋大学人間科学総合研究所客員研究員。



## 【主な教育・研究経歴】

「中華人民共和国建国以前の中国共産党の外事工作―王炳南の活動を中心に―」『東洋大学人間科学総合研究所紀要』第26号（2024年）ほか

## 【現在行っている研究】

現在は、日本財団海上保安研究基金のプロジェクトとして、中国の海洋調査活動の定量・定性分析を行っています。

また、個人研究として中国の、海上保安庁に対する「認識」の分析を行っています。

## 海保だから得られる知見を研究に活かし社会に還元

当初、この組織の中でどういう研究をして行けばいいのか悩んでいた時に、海上保安庁の先生から「せっかく海保という環境にいるんだから海保でしか手に入れない情報や海保だから得られる知見を研究の中に取り組むことで、ニーズを捉えてかつ意義のある研究ができるんじゃないか」と助言をいただきまして、本当にその通りだなと腑に落ちました。

私はどちらかといえば、自分の関心事項に特化してそこを突き詰めていくタイプの研究者なのですが、社会のニーズをとらえた研究にもしっかりと目を向けていきたいと思っています。

いわたに のぶこ  
**岩谷 暢子** 主任研究員

研究領域：国際法、国際機構、国際平和協力、島しょ国

## 【主な実務経歴】

外務本省（総合外交政策局）、国際連合日本政府代表部、在ガーナ日本国大使館、在フィジー日本国大使館、内閣府国際平和協力本部事務局など



## 【主な教育・研究経歴】

博士（法学）。神戸大学大学院国際協力研究科、神戸学院大学客員准教授

## 【現在行っている研究】

法を執行する行政組織としての海上保安機関の間での連携・協力における成否要素の分析を、組織・法・運営の面から試みています。

## 国際ルールは生きもの。多国間関係での経験を活かした研究に取り組む

20年ほど外務省に勤務しました。多国間外交に関わることが多かったのですが、西アフリカと南太平洋の公館に赴任した経験から、1つ1つの国での人間同士の関係が、多国間関係においても、非常に重要なことを学びました。

海上保安機関の国際連携が関心テーマです。多国間外交の中で、ルールや仕組みの策定交渉、実施、運営を見てきた経験を活かして、研究を根気強く組み立てていきたいです。実家は離島地域にあり、巡視船を日々見送る環境にありますので、海保は身近な存在です。海上保安官の方々の仕事に何らかの形で役立てるよう、自分の専門（国際法・国際機構）の分野から取り組んでいきたいです。



昭和 61 年、海上保安大学校卒業。本庁、管区本部、巡視船での勤務のほか、特殊救難隊で 6 年間、フィリピン・コーストガードで JICA 専門家として 3 年間の勤務経験を持つ。平成 29 年から現職。令和 4 年、広島大学大学院社会科学研究科で修士号（マネジメント）を取得、現在は同研究科の博士後期課程に在籍。



### 現場の視点と学際的視点を架橋し、安全風土の高い組織の在り方を探求

授業は海上安全学の講義を担当し、安全マネジメントや危険物事故への対応方法などを教えています。中でも安全マネジメントについては、海上保安業務が多様化、複雑化していく中、現場対応能力を維持・向上させるための根幹と考え、特に重点を置いています。個人はもとよりチームと組織の安全マネジメントが重要で、そのためには質の高い安全風土や安全文化が欠かせません。研究についても、安全風土が高まる要因やその意義について研究していますが、海外にも目を向け、米国沿岸警備隊などとの学術交流を通じた情報収集や意見交換も行っています。

MSP の授業ではセーフティー・マネジメントシステムを担当していますが、そこでも安全マネジメントの重要性とリーダーとして何をすべきかなどについて、ケースメソッドという討議式の授業を通じて学びを深めるようにしています。国や文化を超え、普遍的な価値である「安全」を学生と共有することがねらいです。

平成 12 年、海上保安大学校卒業。特殊救難隊で 7 年間勤務した後、海上保安大学校国際海洋政策研究センター（当時）に勤務し、並行して広島大学大学院社会科学研究科で修士号を取得。その後、シンガポールにある日本海難防止協会に所属し調査研究に従事。帰国後、東京経済大学 大学院経営学研究科で博士号を取得し、令和 5 年から現職。



### チームのパフォーマンスを高めるリーダーシップの探求

「リーダーシップのかん養」は当校の教育方針のひとつです。私は「チームのパフォーマンスを高めるリーダーシップとは何か」、なかでも近年注目が高まっている「シェアド・リーダーシップ」という、リーダーだけではなく、それぞれのメンバーもその専門分野を活かして影響力を発揮するという理論を主に研究しています。

リーダーシップは誰もが学べば獲得できるスキルだととらえ、それぞれの学びをサポートしていくことが私の使命だと考えています。

平成 17 年、慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻後期博士課程単位取得退学。同大学グローバルセキュリティ研究所助手、島根県立大学北東アジア地域研究センター助手、海上保安大学校講師、同大学校准教授を経て、令和 6 年から現職。



### センターのシンクタンク機能強化に向けて

私は、竹島周辺海域をめぐる諸問題に関心を抱いています。例えば、韓国のコーストガードはどのようにして同海域を日本から守ろうとしているのだろうか。こんなことを考えながら韓国政府発刊の公的資料を一枚ずつ読み続け、彼等の政策を理解しようとしてきました。時間がかかる作業となりますが、そのおかげで『竹島をめぐる韓国の海洋政策』という本も刊行できました。なお令和 3 年にはこの書籍により日本沿岸域学会から学会賞を頂いています。これを通過点として、今後一層研さんを深め、分析力の向上に努めたいと思っています。

## 学生国際会議に参加した 学生インタビュー



令和5年度 学生国際会議 議長

本科第四学年第一群（航海）

伊東 知穂

準備の段階で、外国の方と連絡を取り合い、先方が状況をはっきりと把握できるよう説明することが難しかったです。招へい学生と、三ツ石寮で一緒に過論し、交流を深めることで、共通点を強く感じられたことは収穫でした。



令和5年度 学生国際会議 副議長

本科第四学年第三群（情報通信）

佐藤 勇斗

会場の準備では、初めて触れる機材が多く、セッティングに慣れていなくて、会議ギリギリまで調整が続いて大変でした。国際会議の開催にあたっては多くの人の協力が必要になり、そこにおける調整の難しさを学ぶことができました。



令和6年度 学生国際会議 議長

本科第三学年第二群（機関）

花田 優斗

初めて自分自身で国際会議を運営する経験をさせていただきました。準備の段階で各国の方と連絡を取りながら、当日の会議までの調整を並行することは、とても大変でした。ご協力いただいた教官方をはじめ、様々な方から沢山のことを学ばせていただきました。今回得た知識、反省、経験をこれからの海上保安官人生に活かしていきたいです。



令和6年度 学生国際会議 副議長

本科第三学年第三群（情報通信）

堀内 梨紗

招へい学生の方とともに過ごした時間が特に印象的でした。食事や交流活動等を通じて、英語に触れる機会を増やせたことが今年度の成果だと感じています。招へい学生のサポートを通じ、英語能力は勿論、様々な事柄について、自分の考えをしっかりと持っておくことが重要だと気付かされました。

## 学生にとって最初の国際 体験となる学生国際会議

令和6年6月20日から23日にかけて海上保安大学校で国際交流促進事業のメインプログラムである学生国際会議が開催された。

同校の本科学生と、アメリカ、カナダ、マレーシア、フィリピンの海上保安機関等から招へいされた7名の学生及び若手士官が参加し、海上保安に関する様々な議題について意見交換を行った。



海上保安大学校で開催された学生国際会議の様子

## ホッとひと息、私のリラックスタイム

教育に研究に、日々切磋琢磨し業務に挑む教員・研究員のみなさん。疲れた時はどうしてるの？  
気になるリフレッシュ法をうかがいました。



オンタイムでは、MSP等の学生との議論です。MSPのリサーチペーパーや学生の卒論を指導しつつも、彼らの若いエネルギーを吸収してます(笑)。熱意ある若者と接すると、彼らのためにも頑張ろうという気持ちになります。オフタイムでは、家族との団らんです。転勤に同行してくれた家族に感謝です。

奥菌副センター長



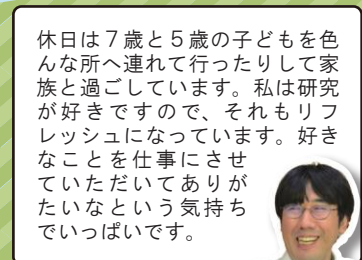
後藤  
センター長

趣味は釣りとお自転車です。釣りは手間がかかりますがフカセ釣りが好きですね。自転車はコロナをきっかけに始めました。尾道で勤務していた時は、サイクリストの聖地と言われるしまなみ海道もよく走りました。



乗り物と駅や空港が好きで、製造や運輸の歴史を調べたり、見に行ったり、撮ったりしています。

岩谷主任研究員



休日は7歳と5歳の子どもの色んな所へ連れて行ったりして家族と過ごしています。私は研究が好きですので、それもリフレッシュになっています。好きなことを仕事にさせていただいてありがたいなという気持ちでいっぱいです。

山影主任研究員



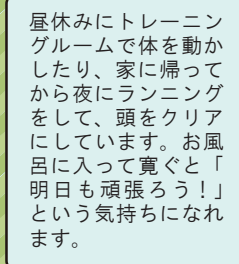
野中教授

天気が良ければ、昼休み中、キャンパス内を散歩することがあります。その他、研究室の窓から瀬戸内海を眺めて、頭を休ませることもあります。私の研究室から見える景色って、結構きれいなんです。



野間教授

身体を動かすことがリフレッシュになります。体力の維持も兼ねて水泳やジョギングのほか、最近ではヨガにはまっています。あとは夫婦で晩酌するのも楽しみの一つですね。4歳の孫娘がいますが、とてもなついてくれていて、公園で一緒に遊ぶことが最高のリラックスタイムになっています。



一宮教授

昼休みにトレーニングルームで体を動かしたり、家に帰ってから夜にランニングをして、頭をクリアにしています。お風呂に入って寛ぐと「明日も頑張ろう!」という気持ちになります。



# NEWS FLASH

2024年3月-6月

一管区 本部 4月22-24日

**知床遊覧船事故行方不明者捜索**



三管区 羽田特殊救難基地 4月26日

**特殊救難業務研修 開講式**



八管区 敦賀保安部 4月27日

**越前松島水族館でのイベント**



六管区 松山保安部 4月27日

**ゆるキャラサッカー大会**



七管区 福岡保安部 5月3-4日

**巡視船「やしま」一般公開**



学校 保安学校 3月24日

**海上保安学校 卒業式**



九管区 本部 4月3日

**海上保安庁×アルビレックス新潟 コラボポスター完成**



十管区 鹿児島保安部 4月15日

**巡視船「しきしま」解役**



四管区 本部 4月21-22日

**NHK名古屋でブース出展  
～チョコちゃんと撮影～**



九管区 本部 3月1日

**3月 最大規模!延べ7,888トン!  
能登半島地震 給水支援終了**



二管区 福島保安部 3月11日

**震災行方不明者合同捜索**



八管区 舞鶴保安部 3月15日

**巡視船「ふそう」解役**



六管区 高松保安部 3月19日

**新屋島水族館へ感謝状贈呈**





七管区 大分保安部 6月4日

要救助者を救え! 急患搬送訓練



十管区 八代保安署 5月25日

熊本みなまた港フェスティバル2024



七管区 福岡保安部 5月3-4日

大人気イベント!  
巡視船「むろみ」潜水士による展示訓練



四管区 衣浦保安署 6月5日

海洋環境保全教室



学校 保安学校 5月26日

田辺城まつり



十一管区 那覇保安部 5月4日

巡視船「おきなわ」一般公開



学校 保安学校 6月11日

行軍訓練



二管区 本部 5月30日

東北電力との離島電力復旧共同訓練



三管区 千葉保安部 5月15日

千葉県・地元学生と  
コラボポスター  
制作

十管区 本部 6月22日

女性限定  
海保・警察・消防合同おしごと体験会



6月 一管区 小樽保安部 6月1-2日

日和山灯台一般公開と飛行展示



五管区 本部 5月18日

海保・警察・消防  
合同潜水訓練



三管区 本部 6月30日

TOKYO HEROES' GAME  
~読売巨人軍とコラボ~



二管区 本部 6月1-2日

東北マリンフェスタ2024  
湾ダブルしおがま・ポート天国



五管区 大阪保安監部 5月21日

万博開幕に向け、  
大阪灯台でのコラボ撮影!





# 自己救命策の確保

～ 思わぬ事故から命を守るために必要なこと～

自己救命策確保3つの基本

## 1 ライフジャケット 常時着用

保守・点検されたものを  
正しく着用してね。



©JCGF

## 2 携帯電話等 連絡手段の確保

防水パックに入れて  
落とさないようにね。



©JCGF

## 3 118番・NET118 の活用

GPS機能を「ON」とした  
携帯電話で通報すると  
正確な位置の把握につながるよ。



©JCGF



©JCGF

プラス!

家族や友人・関係者に「目的地や帰宅時間」を伝え、  
現在位置等を定期的に連絡しましょう。



118番

## 海上保安大学校・海上保安学校採用試験

申込受付中

① 海上保安大学校学生採用試験

受付期間：8月22日(木)～9月4日(水)

第1次試験日：10月26日(土)及び27日(日)

ホームページ：<https://www.kaiho.mlit.go.jp/recruitment/enter/jcga.html>

受験案内配布時期：2024年6月12日(水)～

② 海上保安学校学生採用試験

受付期間：7月16日(火)～7月25日(木)

第1次試験日：9月22日(日)

ホームページ：

<https://www.kaiho.mlit.go.jp/recruitment/enter/jcgs.html>

受験案内配布時期：2024年6月12日(水)～

詳しくは、二次元コードをご確認ください▶

海上保安庁採用HP



## 第25回未来に残そう青い海・ 海上保安庁図画コンクール 作品募集

第24回未来に残そう青い海・  
海上保安庁図画コンクール受賞作品

海上保安庁では、海洋環境について考える機会を通じて、海への関心を高め、  
海洋環境保全思想の普及等を図ることを目的として、小・中学生を対象に図  
画コンクールを開催しています。作品は、「はがきサイズ」で募集しています。

多くの皆様からの応募をお待ちしています。

応募の詳細はホームページをご確認ください。

締切は9月6日(金) (必着)。

(共催：公益財団法人海上保安協会)

海上保安庁ホームページ  
海上保安庁図画コンクールページ



特別賞(国土交通大臣賞)



海上保安庁長官賞(中学生の部)

